

3 取組の基本的な方向

誕生前から始める京都の生涯食育 ～感謝の気持ちで「いただきます。」～
の基本理念のもと、食の重要性を理解するために効果的と言われる「五感を使った体験」と「食文化の伝承」を重視しながら、未来を担う子どもや学生等若い世代、食育の原点である家庭、住民に最も身近な地域に対して、重点的に食育に取り組みます。

I 未来を担う子どもや学生等若い世代に対する食育を強化します。

未来を担う子どもについては五感を使った食農体験や地域の食文化を伝承させる取組、学生等若い世代については食農体験や生産者との交流による食に関する体験や就業支援の場を活用した取組、高齢者については豊かな食を確保するための取組など世代に応じた食育を強化します。

II 食育の原点である家庭における取組を強力的に支援します。

家庭は食育の原点であることから、例えば、朝食の欠食をなくすために食の重要性を十分に啓発するとともに、調理等の技術習得ができるよう、食生活改善推進員や生活研究グループ等地域の食の専門家の協力を得た郷土料理や行事食等の料理教室の取組などを行い、家庭における食育を強力的に支援します。

III 住民に最も身近な地域での食育が進むよう体験の場づくり等を推進します。

地域は住民に最も身近な場であることから、例えば、市町村食育推進計画の策定支援、「食」に関する指導計画に基づく体系的な食育の実施、食農体験農場等体験の場づくりなど地域の取組を推進します。